

中間評価（表紙）

白河市歴史的風致維持向上計画（令和3年3月5日認定）
 中間評価（令和3年度～令和7年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用	3
II 文化財の保存・活用	4
III 伝統産業や祭礼行事の継承	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 歴史的風致維持向上計画 重点地区における入込客数の増加	6
ii れきしら・白河かるた による郷土愛の醸成	7
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A よみがえれ！歴史的建造物活用事業	8
B 白河かるた普及事業	9
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 白河提灯まつりにみる歴史的風致	10
2 白河だるまと白河だるま市（市神祭）にみる歴史的風致	11
3 酒造業にみる醸造業の歴史的風致	12
4 南湖公園の行楽にみる歴史的風致	13
5 街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致	14
■ 庁内体制シート（様式6）	15
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	16
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	17

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	白河提灯まつりにみる歴史的風致	I・II・III	
2	白河だるまと白河だるま市(市神祭)にみる歴史的風致	I・III	
3	酒造業にみる醸造業の歴史的風致	I・III	
4	南湖公園の行楽にみる歴史的風致	I・II	
5	街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致	I・III	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用		
II	文化財の保存・活用		
III	伝統産業や祭礼行事の継承		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歴史的風致維持向上計画 重点地区における入込客数の増加		
ii	れきしら・白河かるた による郷土愛の醸成		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	よみがえれ！歴史的建造物活用事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	白河かるた普及事業	その他	

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～7年
方針	歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的建造物は、所有者の高齢化や後継者不足が進行しており、維持管理費も負担となっている。また、重点区域である城下町エリアに点在しているため、新たな活用法を見出すことが難しく、来訪者のまちなかへの回遊性が低い状況である。

【方針】歴史的建造物活用のモデルケースをつくり、その手法を城下町に面的に拡げ回遊性を高めることにより、城下町エリア全体の賑わいを創出する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	よみがえれ！歴史的建造物活用事業	大木家住宅建造物群を改修し、城下町エリア回遊の拠点とする。	あり	R5～R9
2	歴史的風致形成建造物保存修景事業	2期計画内7件9棟（累計54件69棟）の歴史的建造物への保存修景補助	あり	H23～R12
3	歴史的まちなみ修景事業	2期計画内12件（累計43件）の「景観形成ガイドライン」に基づく建造物への修景補助	あり	H23～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【よみがえれ！歴史的建造物活用事業】

市内で最大規模の歴史的建造物群である大木家住宅建造物群を、分散型ホテル・レストラン・ショップ等へと改修し、これをモデルケースとして城下町エリア全体の賑わい創出を図るため、大木家住宅建造物群の公有化および基本設計を実施することができた。



【大木家住宅建造物群】

【歴史的風致形成建造物保存修景事業】

NPO法人しらかわ建築サポートセンター（歴史的風致維持向上支援法人）と連携し、歴史的風致形成建造物の所有者が行う建造物の修理又は修景に対し支援することにより、歴史的建造物の維持・長寿命化を図ることができた。

※1/2補助 補助上限500千円



【改修前】

【改修後】

【歴史的まちなみ修景事業】

平成23年度に策定した「景観形成ガイドライン」に基づく建造物の外観の修景等に対し支援することにより、良好なまちなみ景観の保全を図ることができた。

※1/2補助 補助上限1,000千円



【改修前】

【改修後】

④ 自己評価 【よみがえれ！歴史的建造物活用事業】ではトークセッションやワークショップを開催することで、市全体として歴史的まちづくりの意識を高めるとともに、歴史的建造物の活用の道筋を示すことができた。【歴史的風致形成建造物保存修景事業】【歴史的まちなみ修景事業】の支援を合わせて実施することで、良好な景観・歴史的な趣きを残したまちなみを形成し、歴史的風致の維持・向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応 歴史的建造物を単に保存するだけでは老朽化が進み、取り壊される事例もあることから、まち全体を面的に捉えて活用を推進し、歴史的建造物の資産価値を高めることにより城下町の風情を残しつつ、まちの賑わいを創出する歴史的まちづくりに取り組む。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～7年
方針	文化財の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】国指定史跡・名勝については、保存管理計画や保存活用計画を策定し適切な保存・管理および活用に努めているが、その他の史跡についても、計画的に保存・管理に努めるとともに活用も図る必要がある。

【方針】指定文化財については、文化財保護法に基づく保存管理を引き続き行っていく。また、無形民俗文化財についても、保存・活用を図るとともに、未指定の文化財については、重要性や緊急性を踏まえ、文化財指定に向けた取り組みを随時行っていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	小峰城清水門復元整備事業	R5年度から復元工事に着手、R8年度復元整備完了（予定）	あり	R2～R8
2	南湖公園史跡整備事業	園路・照明整備を実施するほか、水質および植生改善に取り組む	あり	H29～R12
3	旧小峰城太鼓櫓整備事業	小峰城の建物群の中で唯一現存する建造物（市指定重要文化財）の修復を行った。	あり	R元～R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【小峰城清水門復元整備事業】

清水門は国指定史跡小峰城の主郭部への入口に位置し、「史跡小峰城跡整備基本計画」においても復元対象となっている。

市民参加型の復元に向けて、1千円を一石の寄附とした一石城主による寄附制度や復元で用いる瓦の記名会などを実施した。



【復元の状況】

【南湖公園史跡整備事業】

来園者が快適に過ごせるよう、園路整備を実施したほか、夜間照明の整備に取り組んだ。また、福島大学・日本大学と共同で湖内の水生植物の管理手法や水質浄化対策の検討を行った。これらの取り組みにより、国史跡名勝南湖公園の良好な景観・環境の向上が図られた。



【夜間照明】

【旧小峰城太鼓櫓整備事業】

旧小峰城太鼓櫓は、経年劣化および震災による影響により保存状態が悪化していたため、解体移築復元工事および環境整備（休憩棟新築・園路整備等）を実施した。また改修後は、一般公開や貸館を行い、利活用を図っている。



【改修前】



【改修後】

④ 自己評価 【小峰城清水門復元整備事業】【南湖公園史跡整備事業】【旧小峰城太鼓櫓整備事業】により文化財を適切に管理してだけでなく、より一層、史跡の魅力を高めることに取り組むことができた。

⑤ 今後の対応 国指定史跡については、保存管理計画を基に良好な保存管理に努めるとともに、インバウンド誘客等も踏まえた観光振興や、史跡としての価値を高めるような足元の資源を活かした整備に取り組んでいく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～7年
方針	伝統産業や祭礼行事の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】伝統産業や祭礼行事は地域の人口減少・高齢化等により参加者や担い手が減少しているとともに、祭礼具等も老朽化しており、如何にして次世代にこれら伝統文化を継承していくかが課題となっている。

【方針】祭礼行事の確認調査、記録の保存を実施するとともに、祭礼具の修繕等に財政支援をして行く。また、伝統産業の継承については、市内の歴史・文化的資源を巡る事業を実施するとともに、歴史的なまちなみや伝統産業について広く情報発信・周知していくことで、技術を継承する人材の確保につなげていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地域伝統行事保存事業	伝統文化を後世に引き継ぐため、老朽化が著しい中町山車（白河提灯まつり）の修復を行った。	あり	R6～R12
2	ぐるり白河文化遺産めぐり事業	旧城下町エリア（重点区域）内に多数ある歴史・文化・伝統産業に触れながら街なかを回遊することで、地域の歴史的資源の価値を再認識する。	あり	H21～R12
3	無形民俗文化財等記録作成事業	地域に残る年中行事や祭礼、伝統芸能などの無形民俗文化財について詳細な調査を行い、記録保存を行う。	あり	H23～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【地域伝統行事保存事業】

約360年の歴史を有する白河提灯まつりで各町内が保有する山車には、老朽化が著しく安全な祭礼の実施に支障がでる恐れのあるものもある。伝統行事を後世に継承するため国（文化庁）の地域文化財総合活用推進事業を活用しながら山車等の修繕に取り組む。



【修繕前】



【修繕後】

【ぐるり白河文化遺産めぐり事業】

春と秋の年2回、白河の歴史や文化を体験する街あるきツアーのなかで、歴史的建造物や寺院を巡り、伝統産業である酒蔵等の見学をすることで、白河の歴史・文化を再発見し、ツアーを通して伝統産業をはじめとする歴史的資源を再認識する。



【ツアーでの酒蔵見学】

【無形民俗文化財等記録作成事業】

市内各所に残る年中行事や祭礼、伝統芸能などの無形民俗文化財は、地域の人々の生活に密接にかかわりながら伝承されてきたが、少子高齢化等から担い手不足が進み、次世代への継承が難しくなっている伝統行事もある。このため、活動内容について詳細な調査を行うとともに、写真・映像等により活動内容を記録し、後世へ継承を図る。



【琴平神社の奉納相撲】

④ 自己評価 【地域伝統行事保存事業】では国（文化庁）の補助制度を活用し、自己資金のみでは対応が難しい修繕を実施することができた。【ぐるり白河文化遺産めぐり事業】は、歴史や建物の由来等について、住職や宮司から直接聴くことができるなど、普段できない体験ができるため、大変好評な事業となっている。【無形民俗文化財等記録作成事業】H23年度から累計261団体の記録を行い、伝統行事を写真・映像で保存することができた。

⑤ 今後の対応 伝統行事や祭礼行事を保存するだけではなく、情報発信や周知、活用に取り組むことで継承を図っていく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
効果	i 歴史的風致維持向上計画重点区域における入込客数の増加		

① 効果の概要 白河小峰城・南湖公園における入込客数が増加傾向となっており、波及効果としてまちなか（旧城下町）への回遊性を拡大し、賑わいの創出に取り組んでいる。

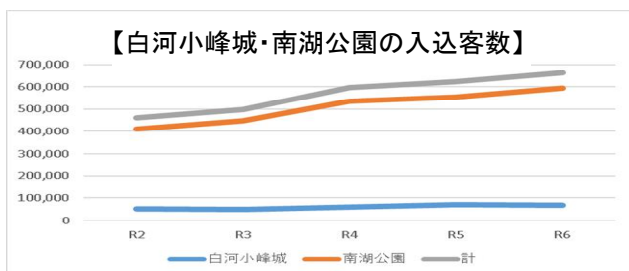
② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	観光振興計画	なし	R2～
2	白河市行動計画 アジェンダ2027	なし	R5～R9
3	第3期白河みらい総合戦略	なし	R7～R11

小峰城清水門復元整備事業や南湖公園史跡整備事業など、小峰城と南湖公園の魅力をより一層高めることにより入込客数の増加を図り、その波及効果として、小峰城や南湖公園を訪れた人々をまちなかに回遊する仕組みづくりを行う。

③ 効果発現の経緯と成果

東日本大震災で大きな被害を受けた小峰城は、石垣の復旧が完了し、さらに清水門の復元整備に取り組んでいる。また、南湖公園では、南湖史跡整備事業において夜間照明を整備するなど歴まち計画の各種事業に取り組むことで、本市の歴史的資源としての魅力を高めている。このことから、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、R3年度まで入込客数が落ち込んでいた両施設において、R4年度からは概ね増加傾向にある。



（単位：人）

入込客数	R2	R3	R4	R5	R6	計
白河小峰城	50,963	49,821	60,456	70,519	67,380	299,139
南湖公園	411,055	447,760	535,340	552,730	594,570	2,541,455
計	462,018	497,581	595,796	623,249	661,950	2,840,594

④ 自己評価

小峰城清水門復元事業や南湖公園史跡整備事業に取り組むことにより、国史跡としての価値や魅力を高めることができた。歴史的資源を保存するだけでなく活用を進めて行くことで、より一層の入込客数の増加が見込まれるが、小峰城や南湖公園を訪れた観光客を、いかにしてまちなか（旧城下町）に回遊させ、賑わいを創出するかという課題がある。

⑤ 今後の対応

市内で最大規模の歴史的建造物である大木家住宅建造物群を分散型ホテルやレストラン、ショップ等へと改修し活用することで、まちなかの回遊性を高め、賑わい創出の成功事例を作る。【よみがれ！歴史的建造物群活用事業】

さらに、大木家住宅建造物群を活用の拠点として、まちなか（旧城下町）に分散している歴史的建造物を宿泊棟や飲食店や店舗へとリノベーションすることで、まちなかの魅力的なコンテンツを増やし、それらを結び付け、面的に整備することによりまち（旧城下町）の活性化を図る。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
効果	ii れきしら・白河かるた による郷土愛の醸成		

① 効果の概要

白河歴史の手引き「れきしら」から出題する「しらかわ検定」や、白河かるたの出前講座・大会を実施することにより本市の歴史を学び、理解を深め、郷土愛の醸成を図る。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	白河市行動計画 アジェンダ2027	なし	R5～R9
2	第3期白河みらい総合戦略	なし	R7～R11

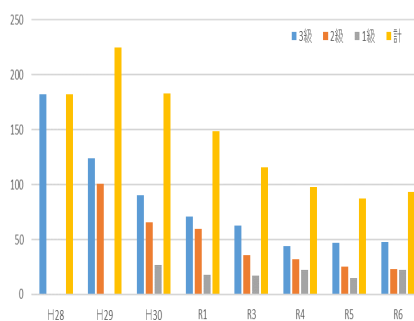
しらかわ検定事業や白河かるた普及事業を通じて、小学生から一般の方まで幅広く白河の歴史を楽しみながら興味と関心を持ってもらう取り組みを行う。

③ 効果発現の経緯と成果

しらかわ検定の受験者は減少傾向であるが、市外や県外からの受験者の割合は増加傾向にあり、検定受験を通して白河を知ってもらう機会となっており、交流人口の拡大にもつながっている。また、白河かるたでは、小学校や児童クラブに出前講座を行ったほか、白河かるた大会では第1回55名・第2回54名の小学生の参加があった。

【しらかわ検定受験者数の推移】

受験者数	H28	H29	H30	R1	R3	R4	R5	R6	合計
3級	182	124	90	71	63	44	47	48	669
2級	0	101	66	60	36	32	25	23	343
1級	0	0	27	18	17	22	15	22	121
計	182	225	183	149	116	98	87	93	1133



【白河かるた大会の様子】

(単位：人)

	R5	R6	計
白河かるた大会参加者	55	54	109

④ 自己評価

白河の歴史を身近に感じてもらうために作成した「れきしら」から出題する「しらかわ検定」は、9回を数え、受験者数も延べ1,000人を超えるなど市民の方を中心に一定の効果があったが、近年受験者数が減少しており、増加させることが課題となっている。

令和5年4月に完成した「白河かるた」は遊びながら郷土の歴史を学べ、出前講座・大会は大変好評であり、今後より一層の普及が期待される。

⑤ 今後の対応

しらかわ検定の受験者数は減少傾向にあるため、合格者にも再度受験の機会を拡げる取り組みを実施していく。また、白河市以外からの受験者の割合が増えていることから、市外・県外へのPR等も検討し、交流人口の拡大にも取り組んでいく。

白河かるたは、作成から年数が浅いものの、子どもたちに体験してもらうと大変好評であり、大会も白熱していることから、今後より一層普及に取り組んでいく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R5～R9年
取り組み	A よみがえれ！歴史的建造物活用事業	種別	歴史的風致維持向上施設

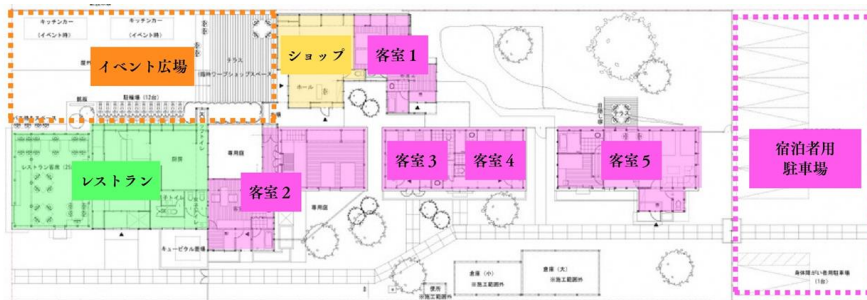
① 取り組み概要

歴史的建造物は老朽化や土地の売却等により、取り壊されるケースもあり、単に保存するだけでなく活用を図り後世に引き継いでいく必要がある。市内でも最大規模の歴史的建造物であり、空き家となっていた大木家住宅建造物群を公有化し、分散型ホテルやレストラン等へと改修し、歴史的建造物活用のモデルケースとする。

また、大木家住宅建造物群を旧城下町エリアのまちなか回遊の拠点とするとともに、大木家住宅建造物群だけでなく、民間の力を活用し、2棟目、3棟目と歴史的建造物を活用することにより、城下町エリア全体に賑わいを創出していく。



【大木家住宅建造物群】



【活用イメージ図】

② 自己評価

大木家住宅建造物群を分散型ホテルやレストラン等へと改修するにあたり実施した、市民参加型の「歴史まちづくりトークセッション」やワーキンググループにより、歴史的建造物を活用したまちづくりに高い関心が集まってきている。さらに、民間の力を活用した歴史的建造物活用の構想もあり、城下町エリアを面的に整備し、まちに賑わいを創出する機運が高まってきている。



【トークセッションの様子】

外部有識者名

日本大学工学部建築学科 市岡 綾子先生

外部評価実施日

令和7年11月17日

③ 有識者コメント

比較的多く指定された歴史的風致形成建造物に対し改修補助を行い、所有者が維持管理を行っているが、いかに解体されずに引き継がれるかは課題であった。積極的な市民への周知を実施した結果、歴史的建造物を今の暮らしの中によみがえらせる活用への関心に高まりをみせている点は評価に値する。所有者の考え方にも選択肢が生じたことにより、城下町エリアに点在している歴史的建造物が観光的視点も含めて改修されれば、それらが面的に繋がり、まちなかを巡り歩く楽しさが生じるであろう。改修前には、建造物固有の魅力を明らかにするために歴史的建造物の詳細調査が望まれる。民間と連携し、観光資源として改修される公有化された大木家住宅建造物群の開業後の賑わい創出を期待したい。

④ 今後の対応

令和7年度は大木家住宅建造物群改修の基本設計を実施するとともに、改修後の運営や管理を担う、まちづくり会社を組成することに取り組んだ。令和8年度以降は、実施設計・改修工事を実施していくとともに、まちづくり会社や運営事業者と連携し大木家住宅建造物群の開業や、歴史的建造物の民間開発物件の改修に着手し、まちの賑わい創出につなげていく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R12年
取り組み	B 白河かるた普及事業	種別	その他

① 取り組み概要

子どもたちが見て・触れて・遊ぶことで、地域固有の歴史・伝統・文化などへの理解を深めるとともに、郷土愛の醸成を図るために「白河かるた」の作成に取り組み、R4年度末に完成した。この「白河かるた」を活用し、小学校や児童クラブへの出前講座や白河かるた大会等を実施した。



【出前講座の様子】



【かるた大会の様子】

② 自己評価

小学校や児童クラブへの出前講座では、白河かるたのルールを説明し、実際に体験してもらうことにより、多くの小学生に楽しみながら白河の歴史に触れ、郷土愛の醸成に取り組むことができた。

また、白河かるた大会では例年50名を超える小学生の参加があり、大会に向けて練習を積んでくるチームも多く大変白熱した大会となっている。大会に参加してもらうことで、白河かるたの普及やPRにつながり、継続しての大会参加や口コミで白河かるたが広まっていくなどの効果が現れてきている。

外部有識者名	日本大学工学部建築学科 市岡 綾子先生
外部評価実施日	令和7年11月17日

③ 有識者コメント（日大工学部 市岡先生）

白河かるたを制作するために組織された白河かるた振興委員会のメンバーが、その後も白河かるたの普及や推進のために、自主的に実行委員会として継続活動している点は、まちづくりは人づくりという視点からも高く評価したい。白河市に生まれ育つ子どもたちが、かるた遊びを通じて白河市の魅力を学び、白河市の住民であることに誇りを持ち、着実に郷土愛が育まれていることであろう。一方で、白河かるたに親しんだ小学生が、成長した後でも白河かるたに触れる仕掛けは今後の課題である。さらなる普及にあたっては、大会に参加した中学生や高校生が、大会運営に携わる機会を設ける、高齢者との多世代交流の際に白河かるたを使用する等、白河かるた普及のサポーター的存在となることを期待する。

④ 今後の対応

出前講座については、小学生だけでなく世代を拡げていくことや、白河かるたのルール説明の動画等も作成することで、白河かるたの普及に努めていく。

白河かるた大会は、参加者（小学生まで）に大変好評であることから、より多くの子どもたちに参加を呼び掛け大会の規模拡大を検討するとともに、大会やかるたを通して白河の歴史を学んだ子どもたちが、小学校卒業後も白河かるたに触れることができる機会の創出等も検討していく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	1 白河提灯まつりにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用 II 文化財の保存・活用 III 伝統産業や祭礼行事の継承		

① 歴史的風致の概要

白河提灯まつりは、白河の総鎮守である鹿嶋神社の例大祭である。隔年の9月に3日間開催され、昼間は旧城下町を中心とした各町内において、子どもたちによって屋台や山車の引き回しが行われ、夜には旧奥州街道沿いを鹿嶋神社の神輿が各町内の提灯行列によって送迎される神輿渡御が行われる。現在の提灯まつりにつながる祭礼は、江戸時代初めの明暦3年(1657)に、白河藩主 本多忠義より神輿の寄進があったことが始まりとされており、祭礼日の変更や、長期の休止はあるものの、現在まで約370年にわたって開催されており、白河市を代表する祭礼として、まちの人々に親しまれている。

※本多忠義が寄進した神輿は現在も渡御に用いられており、昭和41年(1966)に白河市重要文化財(工芸品)に指定された。

② 維持向上の経緯と成果

小峰城を中心とした旧城下町エリアは、歴史的建造物も数多く残っており、そこを舞台に開催される白河提灯まつりは、祭り開催期間はもちろん、子どもたちのお囃子や提灯行列の練習も併せて、約370年の間、多くの市民に親しまれている歴史的風致を形成し維持している。

祭礼で使う山車等は老朽化が進んでいるものもあり、令和6年度には、地域文化財総合活用推進事業(国補助・文化庁)を活用するとともに、市も白河市地域伝統行事保存補助金により支援することで中町山車の修繕を行った。



【改修前】



【改修中】



【改修後】

③ 自己評価

歴史的建造物といった建物の保存に対する支援だけでなく、白河提灯まつりの祭礼具に対する支援に新たに取り組んだ。市民と行政が連携することで、町内単独では対応が困難であった老朽化していた山車を修繕することができ、安全な山車の運行に貢献することができた。

④ 今後の対応

中町山車の修繕をモデルケースとして各町内にも周知を図り、白河提灯まつりにみる歴史的風致の向上を図っていく。また、白河提灯まつりの担い手も減少傾向となっているため、歴史的建造物を保存から活用へとシフトすることによりまちを活性化し、旧城下町エリアにおける交流人口の拡大や居住人口の増加にも取り組み、白河提灯まつりの担い手の増加にもつなげていく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	2 白河だるまと白河だるま市（市神祭）にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅰ 歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用 Ⅲ 伝統産業や祭礼行事の継承		

① 歴史的風致の概要

旧城下町エリアでは江戸時代に多くの「市」が立っており、中でも年の最初に行われていた市神祭は特に盛大に行われていた。市神祭は、縁起物のほかに多くの花（造花）が売られることから「花市」とも称されていた。明治末期頃には「だるま」などの売り物が新聞記事の記述にみられており、昭和のはじめには市神祭は別名「だるま市」と呼ばれるようになった。

白河のだるまづくりは、旧奥州街道の通りと歴史的な店構えを残すだるま店が昔ながらの風情を醸し出し、伝統を絶やすことなく受け継いできた職人の技が相まって、旧城下町の様子を今に伝える良好な歴史的風致を形成している。

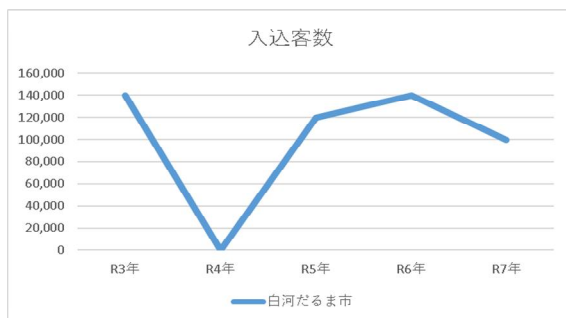
また、白河だるま市は、白河に春の訪れを告げる風物詩となっており、「市」を通じて人々の交流の場となってきた城下町に残るカギ型の形態の旧奥州街道の通りや、その沿道に残る歴史的建造物を背景に、威勢の良い売り手の声と白河だるま市に訪れた人々の賑わいが相まって、本市の歴史的風致の魅力を維持している。

② 維持向上の経緯と成果

白河だるま市は、コロナ禍の影響を受け令和4年は中止とされたが、再開後、入込客数は回復傾向となっている。だるま店の店舗では、現在でも歴史的風致形成建造物に指定されている建物を改修し作業所や販売所として活用している店もあり、歴史的風情を活かしながら伝統産業の継承をしている。

（単位：人）

入込客数	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年
白河だるま市	140,000	—	120,000	140,000	100,000



【白河だるま総本舗（渡辺だるま店）】
【歴史的風致維持形成建造物】

③ 自己評価

現在、白河だるまを制作している店舗は、「白河だるま総本舗（渡辺だるま店）」と「佐川だるま製造所」である。いずれも伝統工法でだるまづくりを行っており、本市の代表的な伝統産業となっている。毎年2月11日に開催する白河だるま市は、白河の伝統産業や歴史文化に触れてもらう本市最大規模のイベントの一つであり、旧城下町の旧奥州街道沿いの天神町・中町・本町の3町を会場に約15万人が訪れるなど、白河の歴史的風致の形成に大変重要な役割を果たしている。

また、白河だるま総本舗（渡辺だるま店）では、歴史的風致形成建造物に指定されている蔵や作業所を活用しながら伝統産業であるだるまづくりを継承しており、だるまづくりや白河だるま市が「歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用」「伝統産業や祭礼行事の継承」を実践している好事例となっていると考えられる。

④ 今後の対応

重点区域であり白河だるま市の舞台となっている城下町エリアには、歴史的風致形成建造物が点在しており、これらを保存するだけでなく活用を図るとともに、白河歴史の教科書である「れきしら」や「白河かるた」、城下町の歴史や文化に触れる「ぐるり白河文化遺産めぐりツアー」などの事業を推進することにより、白河だるまと白河だるま市にみる歴史的風致を次世代へ継承していく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	3 酒造業にみる醸造業の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用 III 伝統産業や祭礼行事の継承		

① 歴史的風致の概要

白河の酒造業の歴史は、江戸時代にさかのぼる。酒造業の振興は白河藩主・松平定信が殖産興業の振興に力を入れたことが大きいと考えられており、松平定信は、酒の品質向上を図るため、上方の池田・伊丹から酒杜氏を招き、その酒造法を学ばせ、酒を造らせたといわれている。

また、白河では、江戸時代から醤油・味噌醸造業も盛んに行われており、その多くは旧奥州街道沿いとその周辺に店を構えていた。

現在は、酒造業・醸造業ともに製造を行っている店は減っているが、かつて製造・販売を行っていた歴史的建造物は所在しており、往時を偲ばせている。

② 維持向上の経緯と成果

歴史的風致維持向上計画中の歴史的風致の維持向上に資する事業（伝統産業や祭礼行事の継承に関する事業）として実施している「ぐるり白河文化遺産めぐりツアー」において、旧城下町で受け継がれている酒造りの伝統や手法を学ぶ見学ツアーを実施する等、酒造業にみる醸造業の歴史的風致の維持向上を図った。



【ぐるり白河文化遺産めぐりツアーでの酒蔵見学の様子】

③ 自己評価

現在、市内の酒造業・醸造業において酒造りを行っているのは、一部に限られているが、江戸・明治時代からの歴史を持ち、活用されてきた蔵や土蔵などは良好な状態で残っている。それらの歴史的建造物が、旧城下町において、白河らしい街並みや歴史的風致の形成に貢献している。

第1期計画から歴史的建造物保存修景事業に取り組んでおり、歴史的建造物の補修や修景への支援や、NPOしらかわ建築サポートセンターと連携した歴史的建造物の定期点検を実施することで、これらの歴史的建造物を良好な状態で保存することに貢献できている。

④ 今後の対応

白河の酒造業・醸造業の伝統を継承してきた歴史的建造物を保存するだけでなく、当時の伝統文化に触れてもらうことが可能となるように「ぐるり白河文化遺産めぐりツアー」等と連携した見学や体験の実施による活用を図る。また、現在製造を続けている蔵元には、白河産としてブランド化することで付加価値を高めるとともに、商品のPRや地産地消を可能とする場を提供していく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	4 南湖公園の行楽にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用 II 文化財の保存・活用		

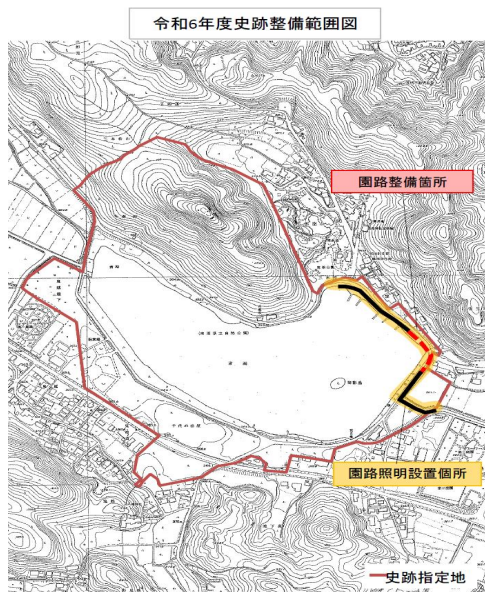
① 歴史的風致の概要

南湖は、享和元年(1801)に白河藩主・松平定信によって築造された庭園で、松平定信が白河と江戸に築造した合計5つの庭園のうち、唯一現存するものである。塀や柵などを設けず、いつでも誰でもが風景を楽しむ場所とし、武士や民衆も共に楽しむことができる「士民共楽」を理念としている。(大正13年(1924)に国史跡及び名勝に指定)

歴史的風致維持向上計画では地区計画を導入し、店舗等の出店が緩和され、SHOZOカフェなどが進出し、若い人の来店も増え南湖公園全体に賑わいが戻ってきており、築造当初と変わらず行楽を目的にした多くの人たちとそこに残る歴史的建造物が相まって、本市の良好な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

史跡名勝としての価値の向上と快適な利用の両立を目指し、「史跡名勝南湖公園整備基本計画」に基づき、景観に配慮した園路および園路夜間照明の整備を行った。



【整備された園路】

③ 自己評価

来園者の快適な利用と安全性の向上を図るため、園路および園路照明を整備した。

また、水質環境改善に向け、福島大学・日本大学との共同研究に継続的に取り組み、その研究成果に基づき、湖内の水生植物の管理手法の見直しや水質浄化策の検討を行った。これらにより良好な景観が形成され、史跡名勝としての価値を高めることができた。

④ 今後の対応

南湖公園の有する歴史と自然豊かな憩いの場としての価値について情報発信を行い、市民等の南湖に対する誇りのさらなる醸成を図る。

また、南湖の魅力を高めるため、引き続き未舗装区間の園路整備に取り組み、安全で安心して散策できる歩行空間の確保に務めるほか、散策時の休憩施設等の整備も検討していく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	5 街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的まちなみ景観の保全と歴史的建造物の保存・活用 III 伝統産業や祭礼行事の継承		

① 歴史的風致の概要

小峰城の城下町を中心に交錯する奥州街道、会津街道、棚倉街道、石川街道、水戸街道などの街道沿いには、宿場が設けられ、これら宿場を中心とした地域（集落）には、伝承されてきた様々な年中行事や祭礼が残っている。

白河市内の街道集落においては、集落の所在する歴史的建造物を中心に年中行事や祭礼が行われており、それらの歴史的建造物が点在する各集落においては、年中行事・祭礼にあわせて打ち鳴らされる太鼓や鉦の音、あるいは集落のなかを行列を作って歩く光景などが、歴史的建造物と組み合わせさせて歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

無形民俗文化財等記録事業において、地域に根差した民俗・伝統芸能活動等の無形民俗文化財等について、詳細な調査を行い、記録の保存を行った。無形民俗文化財等支援事業においては、文化財指定の有無を問わず、無形民俗文化財等の伝承活動に欠かすことのできない道具の購入や修繕に対して、財政的な支援を行った。



【河東田牛頭天王祭】
（表郷地域／令和6年6月8日）



【十日市のちょうちん祭り】
（大信地域／令和6年7月21日）

③ 自己評価

無形民俗文化財等の活動は、それぞれの地域と結びついて歴史的風致を形成している。無形民俗文化財等の伝承活動の記録を作成することにより、急速な社会環境の変化と少子高齢化の影響で後継者不足が加速し、活動が危ぶまれている伝統行事について、伝承の変化や経緯を後世に伝え、維持・活性化に取り組んだ。また、無形民俗文化財に欠かすことのできない道具の購入や修繕に対して、財政的支援を行うことにより、良好な形で無形民俗文化財が伝承され、歴史的風致の維持向上につながった。

④ 今後の対応

今後も、少子高齢化等により担い手の不足が進み、活動が危ぶまれる無形民俗文化財等が増えてくることが想定されるため、記録した行事の映像公開等を検討することにより、無形民俗文化財の後世への伝承に努めていく。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

白河市庁内組織である「白河市歴史と伝統を活かしたまちづくり庁内推進本部」（部長級）や調整会議（課長級）を中心に計画の進捗評価を実施したうえで、法定協議会である「白河市歴史的風致維持向上計画協議会」を開催している。

（事務局 まちづくり推進課）



【庁内推進本部会議】



【法定協議会】

② 庁内の意見・評価

●よみがえれ！歴史的建造物活用事業（中間評価 代表的な事業）について、歴史的建造物を保存から活用へと転換し、分散型ホテルやレストラン等へと活用していく事業があるが、まちなかの将来イメージ（面的な展開）についてビジョンをしっかりと立てて、庁内で同じ方針（方向性）を持って取り組んでいって欲しい。

●地域伝統行事保存事業（中間評価 歴史的風致別シート等）について、白河提灯まつりに参加する町内や他の伝統行事を実施する団体について、広く周知することに取り組んでいって欲しい。

●新たな事業・取り組みが進んできているため、庁内の連携をより高めながら、歴史まちづくりを推進していって欲しい。

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 住民意見</p> <p>歴史まちづくりシンポジウムin白河(令和5年11月28日 開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い建物(歴史的建造物)と新しい建物との調和が大切となってくる。 ・歴史まちづくりは、地域住民が愛着と誇りを持って、行政と共通理解を図りながら取り組むことが大切である。 ・白河にはたくさん歴史があることを知り、しっかりと後世に引き継いでいくことが大切である。 ・歴史的資源を活用して観光の取り組みに活かしてほしい。 ・歴史まちづくりは、時間がかかる取り組みであり、息の長い取り組みが必要である。 ・若い世代への歴史の継承が大切である。 ・市町村の取り組みに国・県の支援がもっとあると良い。 ・歴史まちづくりをもっと多くの人に関心を持ってもらう。 ・産学官の結びつきをもっと密にして白河を盛り上げていく。 ・自分自身が住んでいるまちを再認識する。 <p>歴史的資源を活用したまちづくりトークセッション(令和6年9月25日 開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物(空き家)の利活用を進めコンパクトなまちづくりを進めて欲しい。 ・地域と行政が一体となって歴史まちづくりに取り組むことが必要不可欠である。 ・これまでの歴史まちづくりの取り組みで良好な景観が生まれてきた。 ・歴史的建造物(不動産)の流動化も必要である。 ・白河には城下町のまちなみが残っているので、人が歩いて楽しめるまちづくりに取り組んで欲しい。 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>令和7年度白河市歴史的風致維持向上計画協議会（令和8年3月18日 開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネルの開通で動線が変わったので、使い勝手のいい駐車場等があれば、小南湖の利活用につながると思うので、歴まち計画の包括的な施策の一部として行ってほしい。 			

市町村名	白河市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 全体の課題</p> <p>歴史的風致維持向上計画第1期(平成23年2月23日)が認定された直後に東日本大震災が発生し、多くの歴史的建造物が被害を受け取り壊しの危機に見舞われた。このことにより第1期計画では歴史的建造物の保存(復旧)に力を入れてきた。この結果、多くの歴史的建造物が取り壊されず、修繕されてきたが、その後14年が経過し、歴史的建造物は所有者の高齢化や後継者の不足、老朽化による維持管理費の負担等により再び取り壊しの危機に見舞われている。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>歴史的建造物を保存するだけではその建物を維持していくことは難しい。市内には第1期計画(H23～R2)中、歴史的風致形成建造物の認定は114棟あったが、第2期計画(R3～)では、後継者不足や老朽化等により100棟(R7)にまで減少している。(▲12.3%)</p> <p>今後(歴史的風致維持向上計画第2期後半)の対応としては、<u>歴史的建造物を「保存だけでなく利活用についての支援検討を積極的に行うことで歴史的風致の維持向上を図る。」</u>(歴史的風致維持向上計画第2期・第3章 3 歴史的風致の維持及び向上に関する方針より)との基本方針に沿って、積極的に歴史的建造物の活用に取り組んでいく。</p> <p>具体的には、市内で最大規模の歴史的建造物群である大木家住宅建造物群を、その風情や佇まいを残しつつ、内部を宿泊施設やレストラン、ショップ等にリノベーションし、国内外から観光客なども呼び込める、賑わい創出の拠点として整備を実施する。さらに、旧城下町を中心に点在している歴史的建造物を活用し、民間主体で順次リノベーションを進め、まち全体の回遊性を向上させ、さらなる賑わいの創出を目指していく。</p>			
This section is currently empty in the provided image			